

新道路技術会議による実験

令和元年12月20日

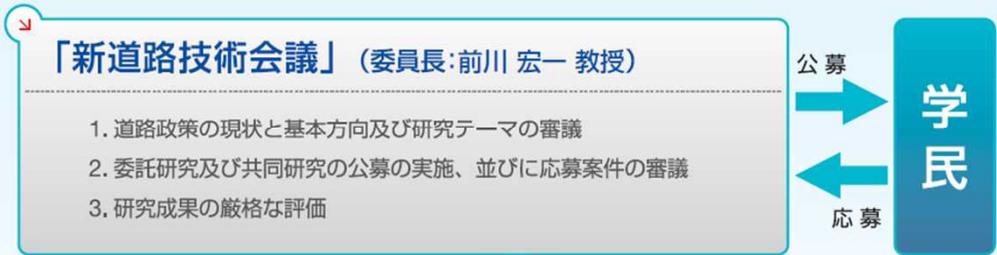
国土交通省北海道開発局

(十勝南モデル地域圏域検討会ワーキングチーム(交通関係))

新道路技術会議

「新道路」とは

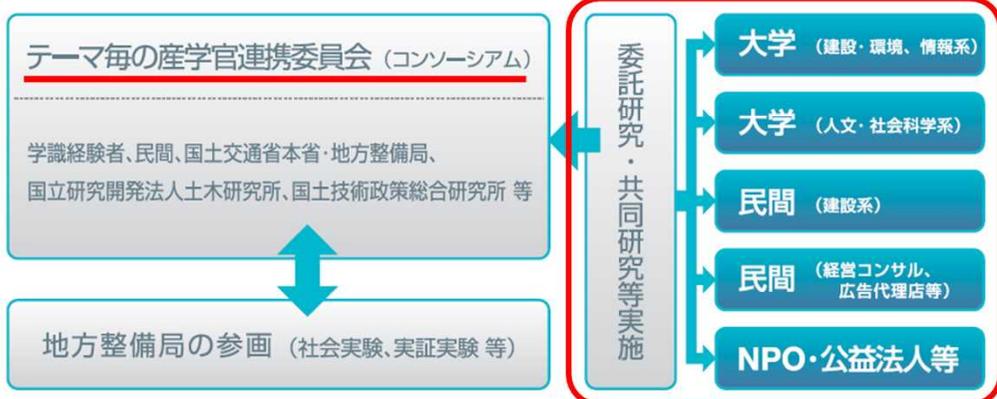
道路政策の技術研究開発のしくみ



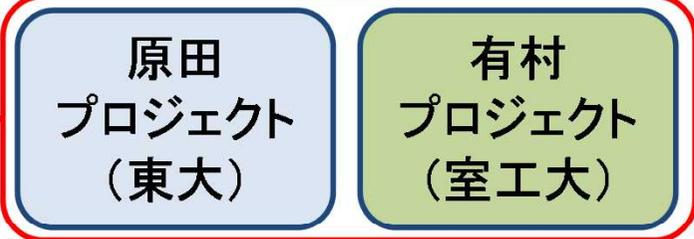
研究テーマ毎に研究体制を決定し、道路技術研究開発を実施

テーマ毎に具体的かつ継続的な産学官の連携推進

- 「産」に対しては、連携のための環境整備(市場規模の検討、試験フィールド提供)
- 「学」に対しては、連携の強化(委託研究の公募等)



「Ngrm研究会」とは



- 両プロジェクトとも以下の点で共通
- ・自動運転と道の駅に着目
 - ・全国貢献(全国データプラットフォーム構築、道路交通施策の研究開発による全国貢献)

自動運転プロジェクト
(国土交通省道路局、中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転ビジネスモデル検討会)

- ・全国13カ所で選定・実証実験実施
- ・北海道で選定された大樹町は「生産空間」であり有村プロジェクトと共通

共同研究会(Ngrm)を立ち上げ
調査・研究成果を共有・連携

資料:国土交通省HP

北海道：有村プロジェクト

自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える
新たな道路交通施策に関する研究

○北海道の農林水産業・観光業を担う「生産空間」では、人口減少によって公共交通や物流の維持が著しく困難化している。

○本研究は、「生産空間」に**住み続けられる道路交通環境を目指し**、自動運転や道の駅の活用の実装を含む道路交通施策のあり方について研究開発を行うことで、同様の問題に苦しむ**全国他地域への貢献**を目指す。

○室蘭工業大学 准教授 有村幹治

東京大学 教授 羽藤英二

北海道大学 教授 萩原亨

北見工業大学 教授 高橋清

北海道大学 准教授 岸邦宏

北海道大学 准教授 内田賢悦

豊橋技術科学大学 准教授 杉木直

北海商科大学 教授 相浦宣徳

北海道科学大学 准教授 井田直人

秋田工業高等専門学校 准教授 長谷川裕修

室蘭工業大学 助教 浅田拓海

(一社)北海道開発技術センター 主任研究員 大井元揮

日本データサービス(株) 次長 東本靖史

事務局:(株)ドーコン 交通部 澤・長岡・片桐・遠坂ほか

研究協力者:国土交通省 北海道局・北海道開発局

南十勝地域における将来構想

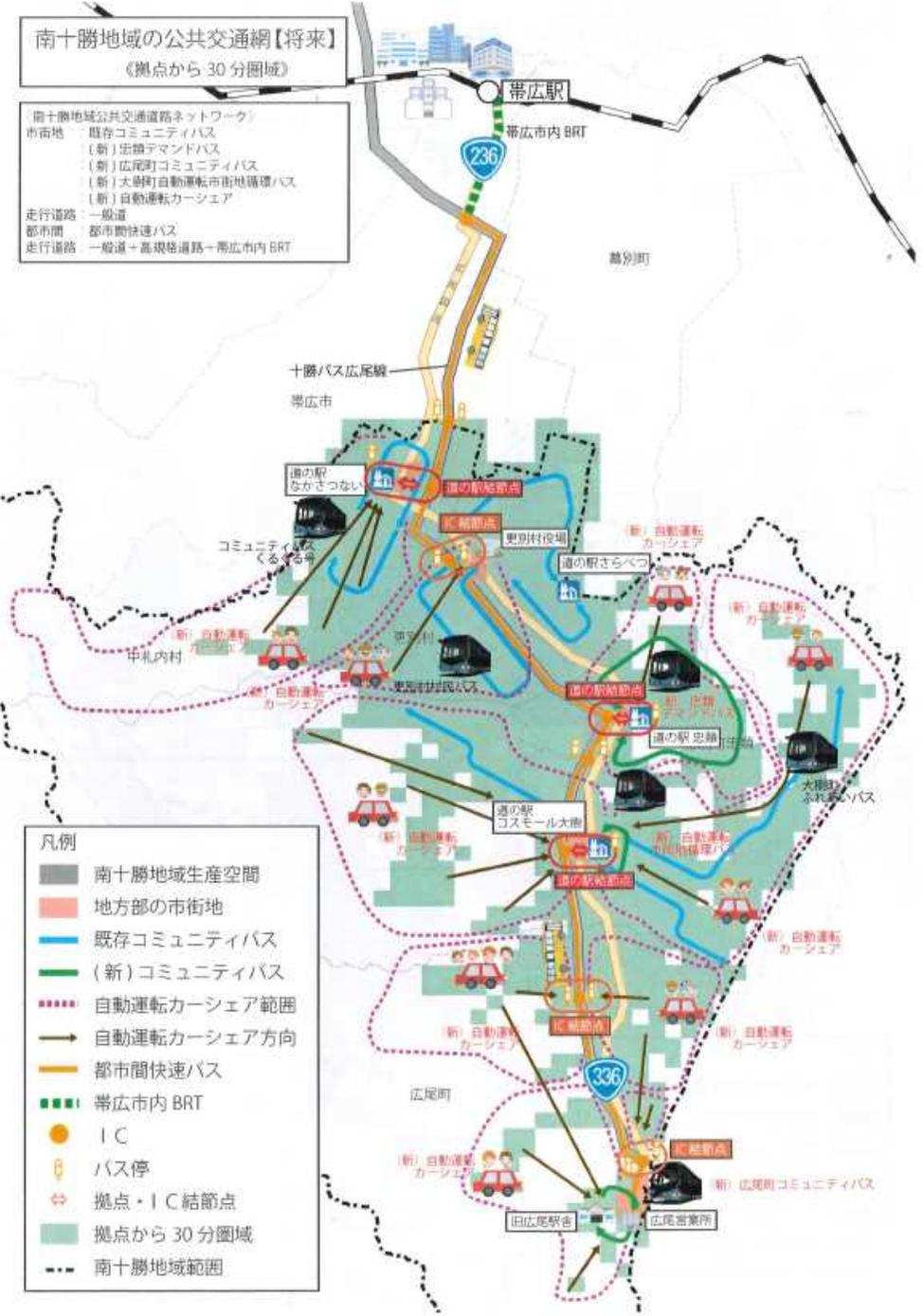
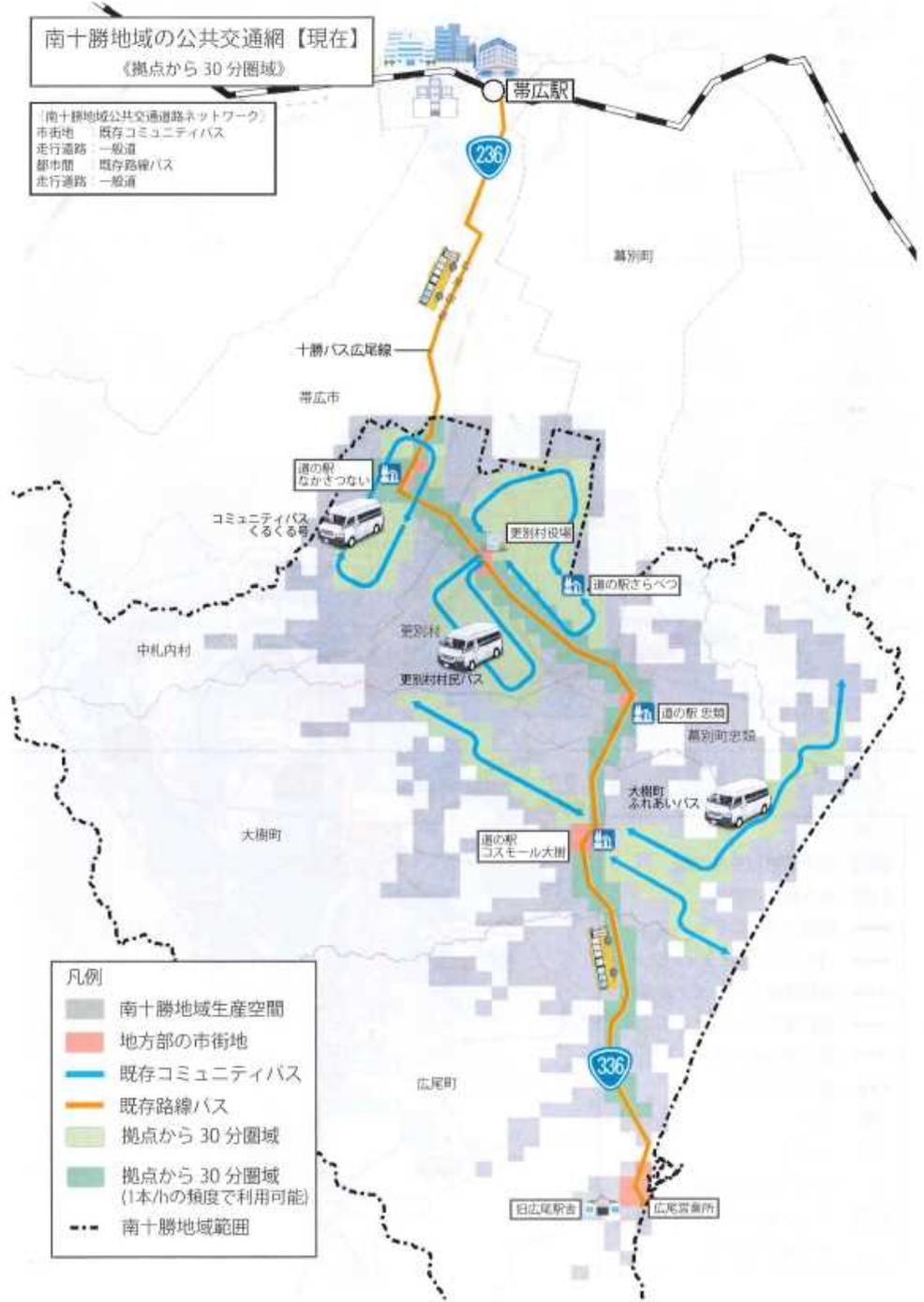
【将来のネットワークイメージ】



【将来の運営イメージ】



南十勝地域公共交通の将来像



南十勝プロジェクトプレ実験

生産空間を支える新たな交通の確立を目指し、南十勝エリアの広域的な公共交通サービスへのニーズを把握し、十勝バス広尾線の高速化実証実験および域内バスとの接続により、生産空間から中核都市への移動利便性を向上した際の地域住民の生活の質や定住意識の変化を明らかにする。

南十勝プロジェクトプレ実験 プロモーションツアー全体概要

プロモーション概要（ツアータイトル版）

A fromマイホームタウン 快速バスで行く！帯広通学モニターツアー

対象：【帯広市内の高校に通う生徒】
①中札内村在住、②大樹町在住、③帯広市下道（中札内または大樹に実家がある）
内容：大樹町及び中札内村と帯広市内の高校を快速バス及び域内バスで繋ぐ
・高校の登校及び下校の時間に合わせたダイヤ運行を行い体験乗車していただく
・乗車時にはアンケート調査にもご協力いただく

B 中学生・高校生・保護者たち集まれ！ 南十勝の未来を語るワークショップツアー

対象：【帯広市内の高校に通う生徒】①②③：上記に既記
【大樹高校に通う生徒】④中札内村在住、⑤大樹町在住
【中学生】⑥中札内村在住、⑦大樹町在住
【中学生または高校生の子供を持つ親（保護者）】⑧中札内村在住、⑨大樹町在住
内容：大樹町及び中札内村から帯広市内へのツアーバスを運行
・帯広市内にてランチ&ワークショップを実施

C 十勝川温泉に全員集合！ バス利用プランを考える大人の修学旅行

対象：【一般】⑩中札内村在住、⑪大樹町在住
【高齢者】⑫中札内村在住、⑬大樹町在住
内容：大樹町及び中札内村から帯広市内へのツアーバスを運行
・十勝川温泉の会場にて「南十勝の交通について」の講座を実施
・引き続き「バス利用プラン」を作成し、1日目終了
・2日目は「バス利用プラン発表」を行い、昼食後、各地へ帰宅

全体スケジュール

12月6日（木）

A M	A 登校
P M	C 往路
	A 下校

12月7日（金）

A M	A 登校
P M	C 復路
	A 下校

12月8日（土）

A M	B 日帰り
P M	



平成30年12月8日（土）
Bワークショップツアー



平成30年12月7日（金）
C大人の修学旅行

10名の学生が参加

20名の住民が参加

20名の住民が参加

都市間快速バス実証実験概要

- 自動運転実証実験期間中に大樹町と帯広市を結ぶ高速都市間快速バスの実証実験を実施
 - ・高速都市間快速バスによる時間短縮、地域交通との接続等を体験
 - ・中札内村の地域交通と接続するシャトルバスを試行

■都市間快速バス実験概要

実験期間	令和元年6月17日(月)～6月21日(金)5日間
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格幹線道路走行による移動時間短縮 ・乗換拠点における地域交通との接続連携
利用者数	延べ206人
実験ルート	道の駅コスモール大樹、中札内IC、帯広市内の医療施設、商業施設、バスターミナルなどを走行するルート ※朝1便のみ帯広市内の学校を走行するルート
走行延長	約60km/片道(64分/片道)
運行パターン	定期運行 8便/日

実験車両

- 大型バス車両(十勝バス株式会社)
- 乗車人数(定員):57人(55人)



■中札内シャトルバス実験概要

実験期間	令和元年6月17日(月)～6月21日(金)5日間
目的	・乗換拠点における都市間交通との接続連携
利用者数	延べ25人
実験ルート	中札内村中心部(道の駅なかさつない)と広域交通との乗換拠点(中札内IC)を結ぶルート
走行延長	約3km/片道(6分/片道)
運行パターン	定期運行 8便/日

実験車両

- 大型バス車両(大新東株式会社)
- 乗車人数(定員):62人(60人)



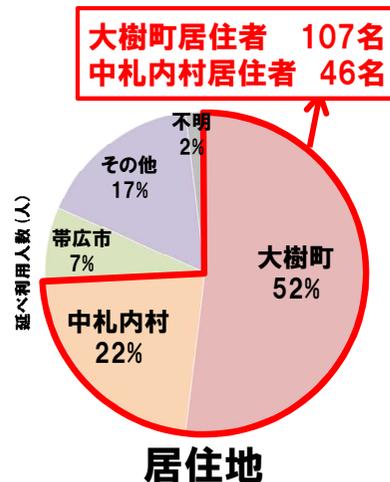
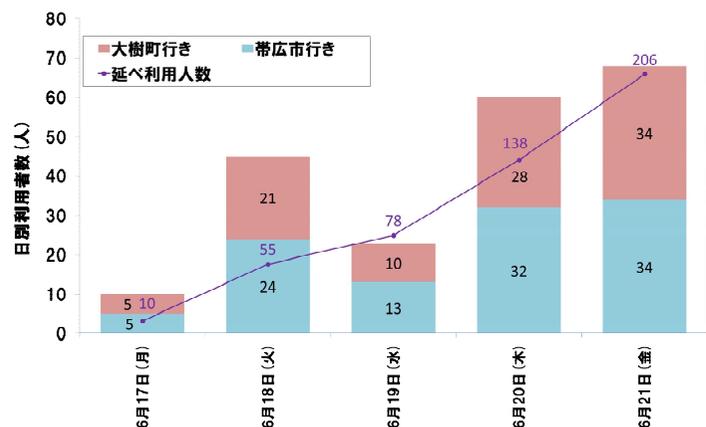
都市間快速バス利用者

○都市間快速バスの総利用者数は206人（大樹町行き98人、帯広市行き108人）

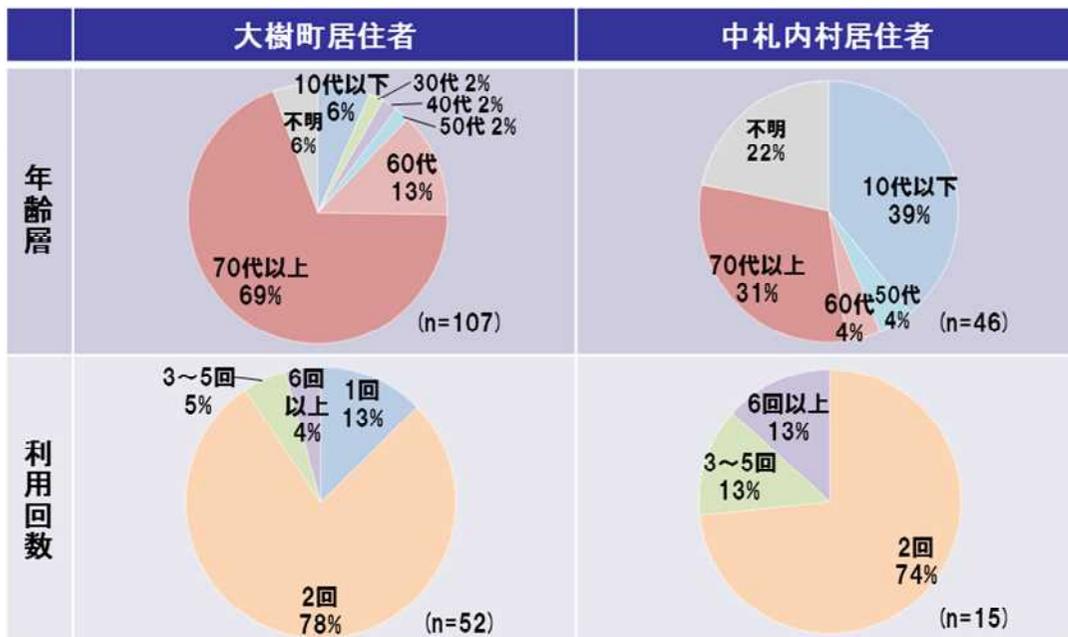
- ・大樹町からは高齢者利用、中札内村からは高校生利用が特に多く見られた
- ・利用区間は帯広駅、商業施設、病院、学校に集中

⇒都市間快速バスの運行は、買物・通院・通学など多様なニーズに対応し、定住環境の向上に寄与

■利用状況



■利用区間



都市間快速バス利用状況

○都市間快速バス、中札内シャトルバスの利用状況

- ・都市間快速バスの移動時間短縮効果により帯広まで通学する大樹町高校生の移動の負担が軽減
 - ・学生から高齢者まで幅広い年齢層に利用され、前向きな意見が多く得られた
- ⇒都市間快速バスの運行は、南十勝圏住民の「生活の足」として有効に機能

■都市間快速バス代表的乗降客の利用ルート（大樹町から帯広柏葉高校に通う学生の例）



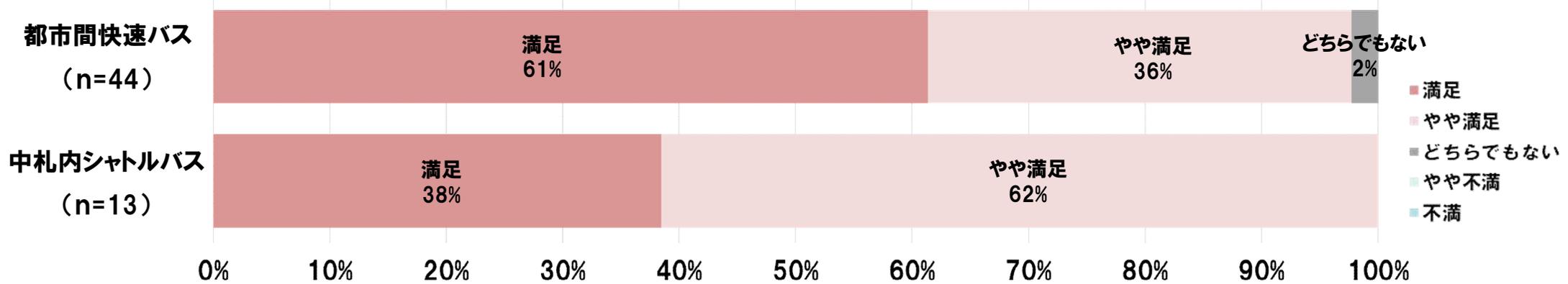
■広域交通利用者の声（一部抜粋）

- 普段、帯広の高校に通うのに朝5時半に家を出ているのが1時間遅くなりとても楽になった(10代 大樹町女性)
- 友人と待ち合わせしたり、映画を見たり、図書館など駅周辺を利用するには最適だと感じた(70代 大樹町女性)
- 帯広に下宿している息子が1時間で通学できるようになれば、自宅から帯広へ通学できる可能性もできて進路の幅が増えるのでうれしい(40代 大樹町女性)
- 部活帰りの時間でも快速バスを使いたい(10代 中札内村男性)
- 自宅から中札内ICまで上手く乗り継ぎができれば、免許を返した後は都市間快速バスを利用したいと思う(60代 中札内村女性)
- 中札内シャトルバスがくるくる号の路線で中札内ICまで回ってくれば、農村の方も利用できていいと思った(60代 中札内村女性)

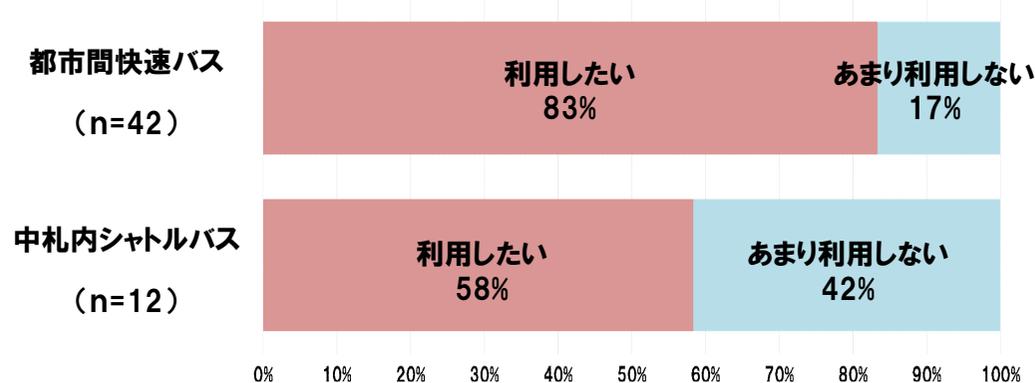
都市間快速バス利用者アンケート調査結果

- 利用者アンケートで取組の満足度、実装時の利用意向、外出機会への影響について調査
 - ・都市間快速バス、中札内シャトルバスの満足度はそれぞれ98%、100%と非常に高い
 - ・今後実装化された時の利用意向は都市間快速バスが約8割、中札内シャトルバスは約6割
- ⇒都市間快速バスは、実装した場合の利用意向が高く、外出機会の創出にも寄与

■広域交通の取組全体の満足度 (利用者アンケート調査より集計)

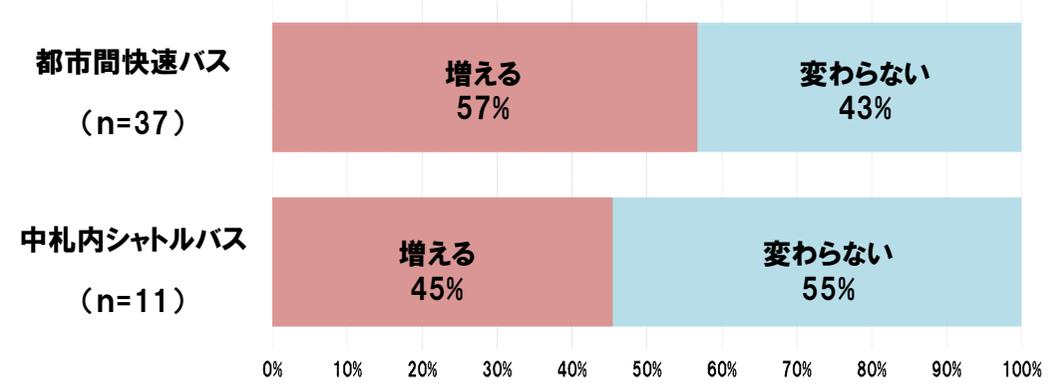


■今後実装化された時の利用意向



(利用者アンケート調査より集計)

■外出機会への影響



(利用者アンケート調査より集計)